

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 絵馬

今月紹介するのは、皆さんにも身近に感じられる「絵馬」です。しかし、町指定文化財の満願寺の絵馬は、現在の一般的な大きさの絵馬ではなく、非常に大きなものです。受験の合格祈願や、恋愛の成就、健康を祈って絵馬に願いを書いた人も多いと思いますが、まずは絵馬の歴史について簡単に説明します。

絵馬は願い事をするときや、それがかなったときに、神社やお寺に奉納する絵が描かれた木の札で、その大きさは様々です。絵馬の歴史は古く、奈良時代のころに生きた馬を神様に奉納したことに始まりましたが、馬は高価なものである一方、もらった側としても世話をするのに困ることから、次第に土などで作った像を納めるようになり、平安時代になると現在のようになり、板で作られた「絵馬」が作

られるようになりました。実際に全国各地で行われている発掘調査で出土した例は多く、秋田県の秋田城跡、奈良県の平城京跡、大阪府の難波宮跡などの都城をはじめ、集落の跡でも発見されており、古くから願いの手段として浸透していたことがわかります。

室町時代までは神馬しんめが描かれることが多かったのですが、安定した社会が形作られ、大衆的な文化が開花した江戸時代になると、現在のように日ごろの生活の中での願いの事を書くようになり、それに伴って皆さんがおなじみの小さな形の絵馬も作られる一方で、絵の内容も神馬だけではなく、干支などの絵が書かれたり、願いの内容に関連した絵が書かれたりと、様々な種類のものが作られるようになり、現在に至っています。満願寺の絵馬は、町内最

大級のもので、1718（享保3）年に奉納されましたが、絵師や奉納した人の名前はわかりません。絵は中央で振り向きながら向かいあうように、右側には非常に長い太刀を二本差した侍と右側には女性が描かれ、侍の側には、一見女性のような若い侍が控え、女性の側にも二人のきらびやかな若い女性が控えており、芝居の一場面を描いた絵のようであり、江戸時代の華やかな町民文化を伝えるものです。一説には、当時宇都宮を離れ水戸藩など他所で暮らしていた、宇都宮氏の子孫が寄進したものと伝えられています。



町内最大級、満願寺の絵馬

当時の人々が、この絵馬に託した願いは何だったのか、300年も前のことではあるところですが、果たしてこの願いが叶えられたのか気になるところです。

江戸時代											時代									
1750	1749	1742	1741	1740	1727	1724	1723	1722	1721	1718	1716	1712	1697	1688	1685	1680	1661	1649	西暦	元号
寛延3	寛延2	寛保2	寛保元	元文5	享保12	享保9	享保8	享保7	享保6	享保3	享保元	正徳2	元禄10	元禄元	貞享2	延宝9	万治4	慶安2		
大規模な通行がある。											<p>三村・上三川村との間で厳密な分水規定と同時に用水の維持管理に必要な労働力と費用の分担規定を取り交わす。徳川家光の100回忌にあたり、日光道中において</p> <p>西蓼沼村の磯川西原地が新田となる。</p> <p>宇都宮藩が百姓の暮らしのせいいたくをいましめる定書を発布する。</p> <p>上之原の入会村である多功・大山・築・鞘堂新田の四か村が結束し、入会地の新田化に際し、助郷役を免除してほしい旨、願い出る。</p> <p>下蒲生村安左衛門ほか9名が芝野200町歩の開発を願い出る。</p> <p>多功孫左衛門が今治藩主松平采女に従い日光社参をし、途中雀宮宿にて多功家旧家臣の子孫と会う。</p> <p>幕府、流地禁止令を撤回する。</p> <p>川中子村にて洪水で村が困窮していることから、助郷役休役の訴願が出される。</p> <p>幕府、流地禁止令を布告する。</p> <p>石田・磯新田・西木代・西汗村が雀宮宿の助郷村となる。</p> <p>この年、満願寺の絵馬が奉納される。</p> <p>鳥居忠英が近江水口城から壬生城に移封される。 (下野における干瓢伝来)</p> <p>勘定奉行荻原重秀により地方直し令が出される。</p> <p>上神主・下神主村と茂原村が入会林場の境界をめぐり騒動を起こす。</p> <p>多功村において、名主の不正をめぐって惣百姓が罷免要求を起こす。</p> <p>徳川綱吉が將軍となる。</p> <p>上神主・下神主村で窃盗防止のための取り決めが作られる。</p> <p>慶安のお触書が出される。</p>									
											できごと									